

開学 20 周年記念号

巻 頭 言

鈴鹿国際大学 名誉学長
勝田吉太郎

鈴鹿国際大学が呱呱の声を上げて 20 年にもなったということを聞き、非常に驚きました。大学を創るために衣斐賢議市長（当時）をはじめ、多くの方々と苦勞を重ねたことが思い起こされます。本学が開学すると優秀な受験者達が殺到しました。ところが、大学創設を次々に認可した文部科学省の政策の結果でありましょうか、鈴鹿国際大学も多くの大学の一つという位置づけになっていったように思います。

開学当初には、三笠宮寛仁親王殿下を筆頭に、中曽根康弘元総理、作家の五木寛之さん、奥田昌道先生（後に最高裁判事）、木村一三さん（日中経済交流の草創期からの功勞者）等、私の依頼に応じてたくさんの方々が教授陣として参集してくれました。真にありがたいことでした。

20 年の間にこのようなユニークで優れた教授陣も次第に退職していましたが、新しい若手の教員の皆さんが研究に励みながら、他大学とは違う本学のユニークな命脈を保ってくれることを望んでおります。大学の世界も厳しい競争環境となっていますが、教職員の皆さんが日本と世界に通用する人材の育成に努めて鈴鹿国際大学を盛り上げ、大学がさらに発展することを心からお祈り申し上げます。